

寄稿

小田原式生ゴミ循環の「志」

小田原市長 加藤憲一

現在小田原市では、市民投入していますが、発酵や微生物の働きで分解が進み、ゴミ循環のモデル事業が複数の方式で進んでいます。特に、ダンボールに木屑を入れ、その中で生ゴミを発酵させて、分解し堆肥化する「ダンボールコンポスト」は、5月より800以上のご家庭で取り組まれています。我が家でも6月から緑側にて活躍するダンボール。1ヶ月に10kgもの生ゴミを

投入していますが、発酵や微生物の働きで分解が進み、基材(木屑+生ゴミ)の量は増えず、イヤな匂いもありません。生ゴミ分別は妻の仕事、投入とかき混ぜなど管理は私の仕事。我が家ではこの後、役目を終えた基材を庭やプランターの土に用い、小松菜などを蒔いて、冬場野菜と春先の菜花を楽しむ。この手法は、毎日の生ゴミを分別と、投入・かき混ぜ作業や温度・湿度管理など、日々の手間と気遣いが必要です。しかし、生ゴミの発生源である家庭で、その量を決定的に減らすと共に、ゴミの資源化に対する意識を育てる方法として、たいへん優れています。しかも、生ゴミを分別収集・運搬し、大規模な処理施設で堆肥化する従来の手法に比べ、コストは圧倒的に低い。そして出来上がった堆肥は、家庭菜園や農場で循環し食物に生まれ変わるほか、庭先や公園などの花壇の土作りを通じて街なかに花と緑を増やすことにも繋がる。原始的な方法のように見えますが、実は地域内循環実現の高度な選択肢なのです。またモデル事業の段階とはいえ、この方法にこれだけの規模でチャレンジしているのは、小田原だけのことです。市民の皆さんによる検討委員会から生まれたこのモデル、これから継続し定着するにはまだ様々な試行錯誤と工夫が必要ですが、「ゴミ」問題の解決に大きく貢献することでしょう。



かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、オービックビル事務局長、有限会社あしから総研代表などを経て、現在小田原市長を務める。妻と子ども2人の4人家族。

我が家でも6月から緑側にて活躍するダンボール。1ヶ月に10kgもの生ゴミを投入していますが、発酵や微生物の働きで分解が進み、基材(木屑+生ゴミ)の量は増えず、イヤな匂いもありません。生ゴミ分別は妻の仕事、投入とかき混ぜなど管理は私の仕事。我が家ではこの後、役目を終えた基材を庭やプランターの土に用い、小松菜などを蒔いて、冬場野菜と春先の菜花を楽しむ。この手法は、毎日の生ゴミを分別と、投入・かき混ぜ作業や温度・湿度管理など、日々の手間と気遣いが必要です。しかし、生ゴミの発生源である家庭で、その量を決定的に減らすと共に、ゴミの資源化に対する意識を育てる方法として、たいへん優れています。しかも、生ゴミを分別収集・運搬し、大規模な処理施設で堆肥化する従来の手法に比べ、コストは圧倒的に低い。そして出来上がった堆肥は、家庭菜園や農場で循環し食物に生まれ変わるほか、庭先や公園などの花壇の土作りを通じて街なかに花と緑を増やすことにも繋がる。原始的な方法のように見えますが、実は地域内循環実現の高度な選択肢なのです。またモデル事業の段階とはいえ、この方法にこれだけの規模でチャレンジしているのは、小田原だけのことです。市民の皆さんによる検討委員会から生まれたこのモデル、これから継続し定着するにはまだ様々な試行錯誤と工夫が必要ですが、「ゴミ」問題の解決に大きく貢献することでしょう。

私が変わる・小田原が変わる
おだわらを拓く力
 (加藤けんいち後援会)
 小田原市栄町2-13-1-2F
TEL.0465-21-5260
 (月・水・金 10:00~17:00)
<http://www.katoken.info>

再生フォーラム

目からウロコ「生ごみは宝」

9/23(木) 市民会館で

加藤けんいち後援会・おだわらを拓く力主催の「小田原再生フォーラム」が9月23日(木)、市民会館で開催される。午後1時半開場、2時間演。参加費500円、学生は無料。

田原再生フォーラム」が9月23日(木)、市民会館で開催される。午後1時半開場、2時間演。参加費500円、学生は無料。話が満載だ。また市民の生ごみリサイクル体験発表や吉田氏と加藤憲一市長のトークも行われる予定。

小学生、子育て中の人も大歓迎とのこと。託児も受け付けており、希望者は9月13日(月)までにおだわらを拓く力☎0465(21)5260(月・水・金)10時~17時 まで申し込みを(2歳以上、定員6人おやつ代込み500円)。